

人工関節置換術における 術後深部感染発生率

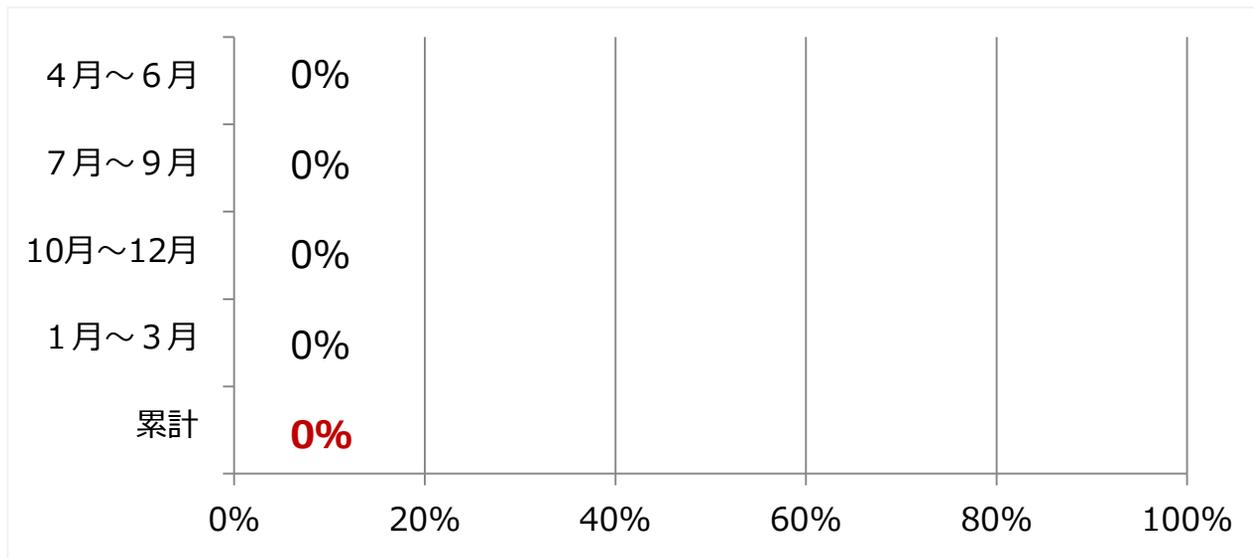
0 %

(平成31年4月～令和2年3月)

指標の説明

手術を行った箇所に深部感染が発生すると、治療に難渋し、患者側・医療従事者側双方にとって身体的・精神的負担がかかるだけでなく、入院期間が延長し医療費の増大にもつながります。特にインプラント（体内に埋め込まれる金属器具）を用いる人工関節置換術（股関節や膝関節など）における感染は難治性であり、その予防と対策が重要となります。本項では当該手術の入院期間中に発症した術後深部感染発生率を算出し提示しています。

(対象症例数：80例)



値の算出方法

(当該手術の入院期間中に発症した術後深部感染患者数※1) / (当該手術を施行された患者数※2) × 100 (%)

※1・・・創部表層のみの感染は除外

※2・・・局所感染の既往のある患者に対する手術は除外

考察

今回の調査では術後深部感染は認めませんでした。

今後も、感染発生率ゼロを目指して、新しい手術材料の導入など術中・術後の対策・管理を徹底して行ってまいります。